

ISSN 0910-2396

# 野鳥友刊

—北海道—

第 84 号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 平成 3 年 6 月 21 日



ノゴマ 1989年7月3日 尾岱沼 撮影者 遠藤 茂



# もくじ

私の探鳥地 (17).....中井 惺..... 2  
 北海道に舞い降りた迷鳥たち (6).....山田 良造..... 3  
 錦大沼の野鳥.....鷺田 善幸..... 4  
 自然保護係りは忙しいが楽しい (3).....隅田 重義..... 8  
 探鳥会案内.....12  
 鳥民だより.....14

## 私の探鳥地 (17)

### 栗山町「御大師山」

### おっとりクラブ 中井 惺

栗山町の野鳥愛好者グループ「おっとりクラブ」のホームフィールドを紹介します。

苫小牧と岩見沢を結ぶ国道234号線を岩見沢方面から入りますと夕張川とJトンネルの間を走りJR室蘭線の立体交差を過ぎると左側一帯に小高い森林地帯が続きます。市街地にかかりますと左側に野球場や公園広場が続き栗山公園の入り口となります。私達が野鳥と親しむ御大師山は公園の森一帯を指しています。この森は植物相も豊富であり昆虫や蝶類も数多く観察され、国蝶オオムラサキも棲息しておりその保護活動も活発に行われております。町ではこの森を環境庁から「ふるさと生きものの里」の指定を受け自然環境の保持に積極的に取り組んでおり、接近する民有林(雑木林)をふるさと創生一億円の一部で購入しました。また自然学習の活動拠点施設「ふれあいプラザ」を建設し、私達おっとりクラブの活動拠点ともなっています。探鳥コースは園路を利用しゆっくりと楽しむことができます。四季を通じてキツキ・カラ類、運が良い人はクマゲラ、フクロウにも会えるでしょう。春からはウグイス、センダイムシクイ、ヤブサメ、メジロ、ツグミ、トラツグミ、クロツグミ、アカハラ、ビンズイ、ホホジロ、オオルリ、キビタキ、アオジ、マヒワ、イカル、シメ、ニュウナイスズメ、キクイタタキ、ミソサザイ、ベニマシコ、ウソ、ミヤマカケス、ベニマシコなど五十種くらい見られ、エゾリスも可愛い姿で樹々の梢を飛渡っています。近くの夕張川は三月下旬からハクチョ

ウ、ヒシタイはじめカモの仲間、カワアイサなどもはります。私たち「おっとりクラブ」では二十名足らずのメンバーで初心者がほとんどです。命名は「おっ!鳥だ」(何かわからないが)のレベルの会員が多いこと。あわてず「おっとり」と行こうということで酒場で呑みながら決めたもので、一名の優秀なリーダーにオンブにダッコで活動を続ける楽しい気楽な鳥仲間集りです。

〒069-15 夕張郡栗山町松風4丁目



## 北海道に舞い降りた迷鳥たち (6)

山 田 良 造

北海道で記録された迷鳥など稀少鳥類を、日本鳥学会未公認記録を含め、記録化しておくことで、北海道野鳥だより76号から80号まで5回、みだしタイトルで掲載しましたが、84号から再びそれぞれの地域で、熱心に野鳥

観察している、皆さんの記録を紹介します。

今回は苫小牧市大畑孝二氏、当別町星子廉彰氏、それに私の記録です。

(鳥名番号は80号から続く)

### 20. カナダツル (ツル科)

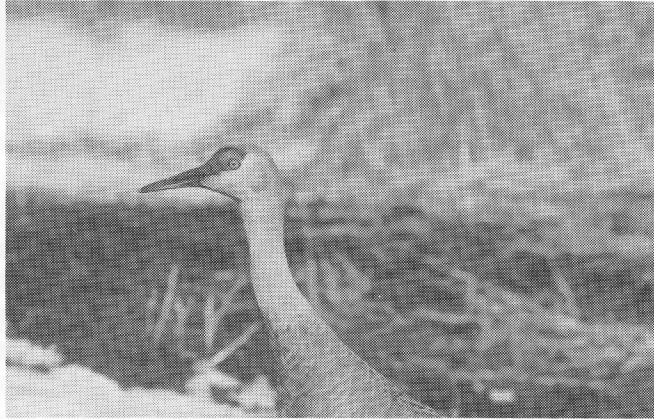
1990年12月31日、苫小牧市植苗ウトナイ湖トキサラマップ川河口付近で、アオサギの群れに交じってたずんでいるカナダツルを、日本野鳥の会ウトナイ湖サンクチュアレンジャー、大畑孝二氏が観察した。

この記事を読んだ私は、何回かウトナイ湖に通い、このカナダツルを観察した。1991年1月3日は、キサラマップ川河口付近で、アオサギと行動していたが、1月6日はオオハクチョウの群れの中にいた。2月に入ると沼は凍結し、ネイチャーセンター付近の、氷を割った水面餌場に、オオハクチョウと一緒に、人の与える餌場に飛来し、4月まで越冬し5月3日に去った。

カナダツルは全長約100cmの小形のツル。体は灰色、はお・のどは白く、ひたい頭上目先は赤い皮膚が見える。風切羽は黒っぽく、くちばし・足は黒い。

アラスカ北部、カナダ北部および中部、パフィン島、アメリカ北部、および中部、フロリダ半島、キューバ、シベリア東北部やチュクチ半島等で繁殖する。

日本には冬鳥としてごくまれに渡来する。カナダツルは6亜種に分けられ、日本に渡来するのはヒメカナダツ



カナダツル 1991. 3. 2. 苫小牧ウトナイ 山田良造撮影

ルと言われる。

鹿児島県出水地方は、ツル渡来地として知られ、1963年から1991年まで11回記録し、北海道には、1970年釧路、1979年苫小牧、鶴居(鶴居に渡来したとき私も見に行き、このときはタンチョウと行動していた)、1990年紋別コムケ湖で記録されたカナダツルは、苫小牧に飛来したものと同一個体とも思われる。

### 21. オオホシハジロ (ガンカモ科)

1981年1月18日午後2時頃、私は根室市歯舞漁港で海鳥を見ていた。港内ではコオリガモ・セグロカモメ・シロカモメ等観察し、防波堤から外海を見ると、ズカモ、ホオジロガモ、クロカモの群れが観察された。さらに防波堤から20mぐらいと近い波間に、ホシハジロの番いが浮いていたので、十分観察もせず写真撮影した。後になってオオホシハジロの番いとわかり、これがその時の写真です。

最近では1988年11月から3年続けて、札幌市茨戸川に飛来越冬し何回か観察した。1991年は十勝川河口付近で記録された。



オオホシハジロ 1981. 1. 18. 根室歯舞 山田良造撮影

形態・分布・記録等は、北海道野鳥だより75号「冬鳥の話題」で井上公雄氏が、オオホシハジロのことを紹介しているので略します。

ハクガン 1986. 4. 30. 美唄宮島沼 山田良造撮影



## 22. ハクガン (ガン類ガンカモ科)

美唄市宮島沼は、北帰行のマガン休息地として知られている。この沼で永い間マガン・ハクチョウ類の渡来を観察し、調査研究している当別町星子廉彰氏の記録によると、1986年4月12日、美唄市宮島沼に2000羽のマガンが飛来し、4月25日はピークの18000羽に達した。このマガンの群れにハクガン1羽確認された。沼で休息するとき、餌場に飛びたつとき、水田で餌をとっているとき、沼に帰ってくるとき等、マガンの大群の中に、真白なハクガンはひととき目立っていた。

この年宮島沼では、ヒシクイ、カリガネ、サカツラガン、白化したマガンも記録された。5月7日を最後にマガンたちは、北の空に飛び立っていった。

ハクガンは全長約67cm、体は白色、初列風切は黒色、くちばし、足は桃赤色。

北アメリカ北部、グリーンランド、シベリア東北部で繁殖し、冬は北アメリカ中部、中国(少数)、日本(まれ)で過ごす。日本にはまれな冬鳥ですが、1890年頃は東京

湾で大群の記録がある。

1971年から1991年まで本州で10数回、北海道では1969年(風連川)、1971年、1972年(場所不詳)1975年(風連湖)1982年、1983年、1986年、1988年(宮島沼)、1990年(風連湖)、最近では1991年3月浦幌に飛来した。

<参考文献>

日本産鳥類図鑑(東海大学出版会)、鳥630図鑑(日本鳥類保護連盟)、ガンとハクチョウの生態(星子廉彰)、青い星のツルたち(北海道)等参照

〒003 札幌市白石区栄通16丁目4-13

## 錦大沼の野鳥

鷺田善幸

### 錦大沼公園について

樽前山麓の太平洋側丘陵の先端にある。周囲3.5kmの錦大沼と周囲1.6kmの錦小沼とを中心に、苫小牧市が管理する公園となっている。広い自然林を背景に数多くの湿生植物の群落があり、トンボなどの昆虫も多い。

市民の散策、憩いの場であるこの公園に30億円をかけ、7年がかりでオートリゾートパークを作る計画が89年に発表された。既に基盤工事が行われており、ヒバリ、ホオアカなどの営巣地であった草地がかなりつぶされてしまった。

計画ではカラマツ林を伐採してキャンプ場、テニスコート、乗馬場などを設けるそうだが、カラマツ人工林内に施設を作るので自然と調和するというが、人工林であっても下草や林縁の植物が生育していて、昆虫や野鳥も多数生息している。そこへ多くの車が入り出すと排気ガスやゴミの影響も大きい。莫大な費用をかけ緑の公園をゴ



錦大沼公園略図

ミだらけの荒地にしてはしくないものだ。

オートリゾートパーク建設が野鳥にどう影響するのか  
が気にかかり、とりあえず今までの記録をまとめてみた。

#### 観察期間と観察区域

1987年5月～1991年3月まで、休日や平日の早朝に観  
察した。

樹木園、樹木センターまでの道路沿い、錦小沼周辺の  
観察が主で、錦大沼の北側はほとんど観察しなかった。

#### 観察の結果から

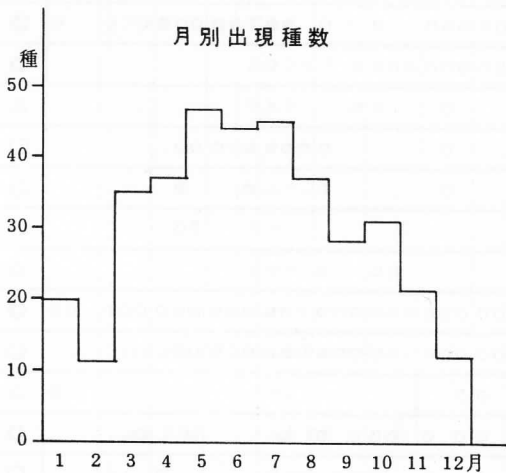
4年間に記録した野鳥は、28科76種である。

日本野鳥の会苫小牧支部が1986年にまとめた「苫小牧  
の野鳥」によると錦大沼周辺の野鳥は27科74種である。  
この資料で記録があるけれど、私が確認できなかった種  
は、コハクチョウ、カルガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、  
ハシビロガモ、ヤマシギ、セグロカモメ、オオセグロカ  
モメ、ヨタカ、アカショウビン、ヤマゲラ、イワツバメ、  
アカモズ、ベニヒワ、ハギマシコの15種である。

「苫小牧の野鳥」に記録がなく、私が観察したものは、  
アマサギ、ホオジロガモ、エゾライチョウ、カワセミ、  
アリスイ、ミソサザイ、エゾセンニュウ、エゾムシクイ、  
サメビタキ、コサメビタキ、ヒガラ、ヤマガラ、ミヤマ  
ホオジロ、カシラダカ、アトリ、マヒワ、オオマシコの  
17種である。

「苫小牧の野鳥」の記録と合わせると錦大沼公園で観  
察された野鳥は、30科91種となる。

鳥相としては草原性の鳥と森林性の鳥が大部分を占め  
る。樽前山麓湖沼群の樽前大沼、森田沼に比べ、水鳥の  
種類と数が少い。錦大沼は水草が少いことと、釣人が入  
るため水鳥が少いのではないだろうか。



#### いくつかの種について

リストにあげたいいくつかの種類について簡単な説明を  
加える。

カイツブリ 1991年3月16日、錦小沼西の無名沼で冬羽

1羽。

アマサギ 1987年5月15日と5月21日、錦小沼南側で夏  
羽3羽。

オオハクチョウ 1981年11月8日錦小沼で5羽（リスト  
に入れず。）1989年3月と11月上空通過。1991年3月20  
日、錦小沼南側10羽。

コガモ 1988年4月28日、1991年3月20日 共に♂1羽。

キンクロハジロ 1988年4月28日 錦大沼中央、♂1羽。

ホオジロガモ 1991年3月20日 錦小沼南側、♀1羽。

ノスリ 1991年1月31日 管理人室前の樹上で1羽。

エゾライチョウ 1988年6月16日、錦大沼北岸の樹上で  
幼鳥2羽。1991年3月16日、錦小沼北岸の樹上で♂1羽。

ホトトギス 1987年6月21日、1988年6月16日、1989年  
6月22日、6月23日と毎年同じ頃に鳴き声を聞く。

アリスイ 1989年5月7日、12日、鳴き声のみ。

オオルリ 1989年5月16日、♂1羽。

サメビタキ 1989年8月1日、樹上で1羽。

キバシリ 1991年3月2日、錦小沼西岸で1羽。

メジロ はぼ毎年、5～6月と8～10月に小群。

ミヤマホオジロ 1989年11月3日樹木園で♂3羽♀1羽。

アトリ 1991年3月14日、4羽。

オオマシコ 1989年3月3日、♂1羽。

ヤブサメ、エゾセンニュウ、エゾムシクイの記録は全て  
鳴き声のみ。

#### 錦大沼公園の野鳥リスト

出現期間は、各月を上、中、下旬で区分し、○で示し  
た。

?は十分識別できなかった場合。

ハシブトガラとコガラとの識別ができなかったので、  
コガラらしいものもハシブトガラとした。

数について、観察回数及び羽数を目安として5段階に  
区分してみた。

●—ごく多い ◎—多い ○—普通 △—少い

▲—まれ

次の種については十分識別できなかったのでリストに  
は入れなかった。

ツミ? 1990年6月30日

ハイタカ? 1989年8月17日、1990年6月3日。

タカSP 1989年3月30日、1990年7月18日、8月8日。

アオアシシギ? 1989年8月27日、鳴き声のみ。

レンジャク 1991年2月22日、鳴き声のみ。

カワガラス 1991年2月 村井雅之氏が覚生川で確認。

ルリビタキ♀? 1990年5月2日。

マキノセンニュウ? 1988年5月1日、1990年6月28日、  
鳴き声のみ。

キクイタダキ? 1987年8月7日。

〒059-12 苫小牧市ときわ町4丁目24-3

錦大沼公園の野鳥リスト (1987.5~1991.3)

目	科	種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	数
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ			○										▲
コウノトリ	サギ	アマサギ					○○								▲
		アオサギ			○ ○	○	○○○			○ ○	○				△
ガンカモ	ガンカモ	オオハクチョウ			○								○		△
		オシドリ			○							○			△
		マガモ			○ ○○	○						○ ○ ○			△
		コガモ			○ ○										△
		キンクロハジロ				○									▲
		ホオヅロガモ			○										▲
ワシタカ	ワシタカ	トビ	○ ○○○	○○		○○○	○	○			○○	○○○	○	○	○
		ノスリ	○												△
キジ	ライチョウ	エゾライチョウ			○			○							△
	キジ	キジ			○ ○○	○○○	○○						○		○
	シギ	オオヅシギ					○○○	○○							○
ハト	ハト	キジバト				○○○	○○○	○○○	○○	○○○	○○	○ ○			◎
		アオバト						○○	○○○	○○	○○				○
ホトトギス	ホトトギス	カッコウ					○○	○○○	○○○						○
		ツツドリ					○○	○○○	○○○						◎
		ホトトギス						○○							△
ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ			○ ○		○ ○	○○○							△
キツツキ	キツツキ	アリスイ					○○								△
		アカゲラ	○○○		○ ○○○	○○○	○○	○ ○○○	○○○○○	○○○○○	○ ○○○○	○ ○○○○	○ ○○○○	○ ○○○○	◎
		オオアカゲラ	○ ○	○ ○					○ ○						△
		コゲラ	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○ ○○○	○ ○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	◎
スズメ	ヒバリ	ヒバリ			○ ○○○	○○○	○○○	○○○	○ ○○○						◎
	ツバメ	ツバメ					○ ○○○	○ ○○○							△
	セキレイ	キセキレイ					○ ○○○	○ ○○○	○○○○	○○○○					○
		ハクセキレイ					○ ○○○	○ ○○○	○○○○	○○○○	○○○○				○
		セグロセキレイ	○○		○ ○○○							○ ○○○			○
		ビンズイ						○○	○ ○○○						△
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	○ ○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	◎
	モズ	モズ				○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○			○
	ミソサザイ	ミソサザイ	○○		???	○ ?								○	△
	ヒタキ	ノビタキ				○○ ○○○	○○ ○○○	○ ○○○	○ ○○○	○ ○○○		○ ○○○	○ ○○○		◎
		トラツグミ				○ ○○○	○ ○○○	○ ○○○	○ ○○○	○ ○○○		○ ○○○			○
		クログミ				○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○				◎
		アカハラ				○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○					◎
		ツグミ	○ ○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○

目	科	種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	数
		ヤブサメ					?	○	○	○	○	○	○	○	○
		ウグイス				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		エゾセンニュウ					○	○	○	○	○				○
		コヨシキリ					○	○	○	○	○				○
		エゾムシクイ					○	○	○	○					○
		センダイムシクイ					○	○	○	○	○				○
		キビタキ					○	○	○	○					○
		オオルリ					○								▲
		サメビタキ								○					▲
		コサメビタキ								○	?	?	?	○	△
	エナガ	エナガ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	シジュウカラ	ハシブトガラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ヒガラ			○	○					○		○		△
		ヤマガラ	○	○	○	○	○					○			○
		シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	キバシリ	キバシリ		○											▲
	メジロ	メジロ					?	?	○	○	○				△
	ホオジロ	ホオジロ				○	○		○	○					△
		ミヤマホオジロ											○		△
		ホオアカ						○	○	○					○
		カシラダカ	○							?		○	○		△
		アオジ					○	○	○	○	○	○	○	○	●
	アトリ	アトリ		○											▲
		カワラヒワ				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		マヒワ	○		○	○									○
		オオマシコ			○										▲
		ベニマシコ	?		○	○	○	○	○	○		○	○		○
		ウソ	○		○	○	○							○	○
		イカル					○	○	○	○	○	○	○		○
		シメ				○	○	○	○	○	○	○	○		○
	ハタオリドリ	ニューナイスズメ				○	○		○						△
		スズメ			○	○		○	○						○
	ムクドリ	コムクドリ					○	○	○		○				○
		ムクドリ						○	○	○	○				○
	カラス	カケス	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
		ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 自然保護係りは忙しいが楽しい (3)

— 学ぶべき事実が実に多い —

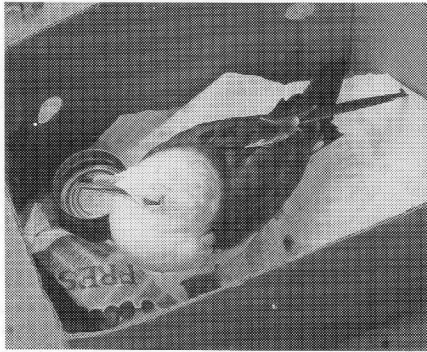
隅田重義

### 1 カモメの失明……これで2度目

函館市亀田川の下流で巡視中に発見。全く失明していた。これで2度目であり、同じ川の下流である。交番からの電話で駆けつけて見ると、交番の窓ぶちに立っており羽を十分拡げても一見して失明していると判った。

先日も同様であった。そのカモメは、亀田川の各所で餌を採っていたが、私には「方向オンチ」とすぐ判った。傍に近づいて拾いあげた。飛べないので仲間のいる川下へ箱に入れて運び、函館市汐泊川の橋の下の中州に何千羽という仲間の中に放鳥する。私にとっては、せめてもの取扱い方であった。今でも、そこを通る度にどうしたかと橋の上から眺めてみる。私が鳥医であったならばなあ……と今も思う。学ぶべきことの多い自分にとって、この一羽のカモメは忘れられないのである。

せめて自然の回復力で元気になれば……カモメを見る度にそう思う。



### 2 今年のコクガンに想う

天然記念物・国際保護鳥であるコクガンの数は少ない。昨年に比べて半分である。暖冬異変のため、磯の“アオノリ”が成長していない。それでも北へ返ることができ



ずに干潮を待っては磯にやって来る。海水温度を測定しても昨年より温かく、アオノリは矢張り寒冷でないで成長は不十分である。それでも〔写真2〕の通り争って海中に首を突っこんではいるものの、潜水のできないコクガンには大変なことである。生きるということは大変なことであり、鳥の数の多少も注目すべきことではあるが、生物の生態・環境をもっと学ばねばと日頃より痛感している。海水温の測定とアオノリの成長、そしてコクガンの飛来数の関係を考察し、またアオノリの生態についても学んでいる。多忙ではあるが、それもまた楽しい。

1月16日は「全国一斉調査」の日……昨年は11羽飛来して驚いたが、今年は1羽も見えていない。

### 3 ハクチョウ

善意の人々から寄贈された餌を、管理人が時間を定めて与えている。ハクチョウは、愛らしく、そして人間に親しむ鳥の1つである。観光にやって来た人々が、その愛らしさに餌をやっているのも、今では1つの風物誌である。この可愛らしい鳥の美しい生命をいつまでも護ってやりたいと思う。



### 4 オオワシの飛来……大沼にて

この鳥の飛来も、矢張り今年は異変があった。気温急変で沼が凍る。オオワシは餌のフナを目当てに飛来する。

また気温急変で水面が触れる。その度に調査に出掛けたが実に学ぶことが多かった。私が大沼・小沼で観察した中で36羽も集まり、目を見張ったことがあった。

しかし、どうした事が弱ったオジロワシが見られ、これを保護し、渡りの頃に放鳥したが、どうも思わしくなかった。その後出かける度に観察してみたが、姿が見えなくなったので、無事北へ帰ったのか……と。

暖冬異変は大きく高山帯から低山帯に至るまで、大き

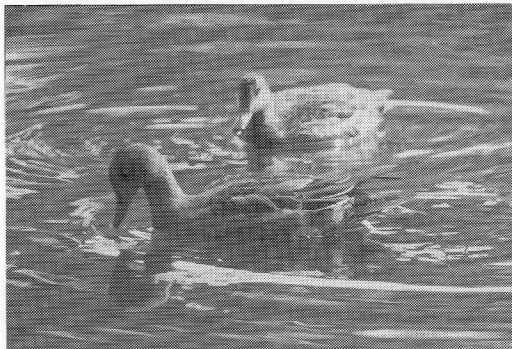


く、然も徐々に変化して来ていることも教えてくれている。



#### 5 五稜郭の堀のカモ異変

今年は珍しい事があった。この堀には、カルガモ・マガモを見ることはあってもオナガガモを見ることはなかった。初記録かも知れない。



#### 6 元気に育てよコジュケイ

昭和40年第1回目、七飯町・恵山町に三宅島より42羽放鳥する。9回目で534羽となる。毎年継続調査をつけている。放鳥は打ち切ったが、近年、積雪多く寒風の

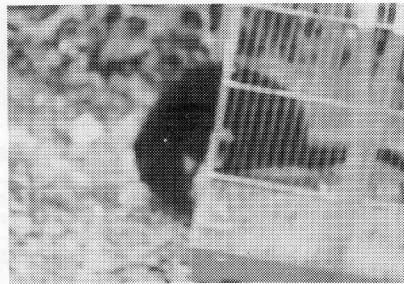


日に巡視中1羽を発見写真を撮り心から喜んだ。生き残っていたのである。大沼にもいた、桔梗でも見た………という話を聞いて喜んでしたが、「コジュケイの汁はとても美味しい」という話がつけ加わったのには本当にガッカリした。38年間放鳥育てたコウライキジも解禁にした現況をつくづく考えさせられるこの頃である。

#### 7 鹿の密猟事件と事故死

近年、鹿の密猟と事故死が多い。痛ましい限りである。写真は釧路……傷ついた鹿を保護し鳥獣保護員数名が費用を出し合い、保護をしているところである。野生動物も余り人に慣れ過ぎて山から里に出て来て事故に出会う。

私たちは動物保護の上で、自然の中で生育している生物を、よりよい環境で保全することを学び行期に来ていると思っている。



#### 8 ミンクによる被害

飼育されていたミンクを取押え、それを野に放したのが失敗のもと、あちこちで逃げたミンクがふえ始めて、野鳥などに害を与えている。全く困ったものだ。

生物が相互に住める環境づくりをどう考えたらよいか。環境は……生物は勿論、水文学は土壌学は……と生物は私たちみんなに、その重要性を教えてくれる。然し私自身、勉強の不足を痛感している。

〒040 函館市八幡町13~16

# 平成3年度総会報告

日 時：平成3年4月13日（土）午後2時～4時30分

場 所：札幌市民会館

柳沢会長のあいさつのあと、議長に小堀煌治氏を選出し審議が行われ、原案どおり可決された。

## <議 事>

### 1 平成2年度事業報告

#### (1) 総 務

ア 新年懇談会の開催（3.1.12、札幌市婦人文化センター）

イ 野鳥写真展の開催

・たくぎん自動サービスフロア（2.5.8～5.17）

・三菱信託銀行札幌支店（2.5.18～5.31）

ウ ネクタイピンの作製

エ 会員名簿の作成

オ 愛護会の名前入りカレンダーの斡旋

カ 定例幹事会の開催（毎月1回）

キ 野鳥だよりの発送（80～83号）

ク 傷害保険の更新

#### (2) 広 報

野鳥だよりの発行（80～83号）

80号は会創立20周年記念特集号

#### (3) 探 鳥

探鳥会の開催（17回、662名）

### 2 平成2年度会計報告

### 3 平成2年度会計監査報告

大坊監事から適正に執行されている旨の報告があった。

### 4 平成3年度事業計画

#### (1) 総 務

ア 新年懇談会の開催（1月）

イ 野鳥写真展の開催

・北海道電力エレナードギャラリー（4.24.～4.30）

・たくぎん自動サービスフロア（5.1～5.18）

ウ 野鳥だよりの発送（84～87号）

エ 愛護会独自のカレンダー作製

オ 定例幹事会の開催（毎月1回）

カ 傷害保険の更新

## 平成2年年度決算書

### (収入の部)

区 分	決算額(A)	予算額(B)	増 減 (A-B)	摘 要
繰越金	360,306	360,306	0	
個人費	633,000	540,000	93,000	358人(平成3年度以降の前受分を含む)
団体費	4,500	13,500	△ 9,000	1団体(平成2年度分)
寄付金	18,500	10,000	8,500	古館氏他
参加費	50,000	35,000	15,000	新年懇談会、藤の沢探鳥会
売上金	316,388	380,000	△ 63,612	野鳥だより、ネクタイピン他
雑収入	6,878	10,194	△ 3,316	利息
合 計	1,389,572	1,349,000	40,572	

### (支出の部)

区 分	決算額(A)	予算額(B)	増 減 (A-B)	摘 要
印刷費	531,804	530,000	1,804	野鳥だより、会員名簿
通信費	214,223	240,000	△ 25,777	だより発送費 他
会議費	82,036	120,000	△ 37,964	幹事会、総会等
消耗品費	7,301	20,000	△ 12,699	コピー、事務用品
賃 金	12,000	12,000	0	だより発送
報償費	130,840	175,000	△ 44,160	探鳥会手当、事務所謝礼他
雑 費	71,886	72,000	△ 114	障害保険、写真展
その他	229,690	180,000	49,690	ネクタイピン作製
合 計	1,279,780	1,349,000	△ 69,220	

### (収支の部)

(収入) (支出) (残高)  
1,389,572 - 1,279,780 = 109,792

内訳 会費仮受分 102,500  
繰越金 7,292

- (2) 広報  
野鳥だよりの発行(84~87号)
- (3) 探鳥  
探鳥会の開催(19回)  
4月の宮島沼、10月の鏡沼・宮島沼をふやし、9月の鶴川を5月に変更
- 5 平成3年度予算
- 6 その他  
鶴居村のゴルフ場計画に会として反対の意志表示をしてはどうか。
- 7 役員選出  
新たに赤石誠二、今野 弘、佐々木武巳、渋谷弘子、富田寿一、野坂英三、三船幸子、矢野玲子の各氏を選出した。

- 監事 野村梧郎、大坊幸七  
代表幹事 白澤昌彦  
会計幹事 ○大野信明、道川富美子  
総務幹事 ○渡辺紀久雄、大町欽子、佐々木武巳、渋谷弘子、清水朋子、野坂英三、三船幸子、村野紀雄、柳沢千代子  
探鳥幹事 ○井上公雄、千葉 広、戸津高保、富川 徹、富田寿一、中野高明、永島良郎、矢野玲子、山田良造、渡辺俊夫  
広報幹事 ○泉 勝統、白澤昌彦、赤石誠二、今野 弘、霜村耕一、竹内 強、武沢和義  
(○印は各担当代表者)

なお、総会後の幹事会において、代表幹事と各幹事の担当を定めた。

会 長 柳沢信雄  
副会長 小堀焯治

## 平成3年度決算書

(収入の部)

項目	前年度 予算額	予算額	摘要
繰越金	360,306	109,792	会費仮受分を含む
個人会費	540,000	555,000	1,500×370人
団体会費	13,500	13,500	4,500×3団体
寄付金	10,000	10,000	
参加費	35,000	40,000	新年懇談会
売上金	380,000	400,000	野鳥だよりの、 ネクタイピン他
雑収入	10,194	9,708	利息
合計	1,349,000	1,138,000	

(支出の部)

項目	前年度 予算額	予算額	摘要
印刷費	530,000	500,000	野鳥だよりの(4回)、封筒
通信費	240,000	170,000	だよりの発送費 他
会議費	120,000	100,000	総会・幹事会 他
消耗品費	20,000	20,000	コピー、事務用品
交通費	52,000	65,000	野鳥だよりの発送、 探鳥会幹事用等
報償費	135,000	110,000	事務所謝礼 他
雑費	72,000	73,000	障害保険、写真展 他
その他	180,000	100,000	カレンダー作製
合計	1,349,000	1,138,000	

※ 会員数

項目	元.4.1	2.4.1	3.4.1
個人会員数	433名	432名	432名
団体会員数	4団体	3団体	3団体



〔鶴川〕平成3年8月25日(日)  
 かわいい子馬に挨拶をして南に渡るシギチドリや、草原の鳥を観察します。突然の珍客が現れてくれるか楽しみです。

集合=9:30、JR鶴川駅前

交通=道南バス(浦河行)札幌駅発8:00、鶴川着9:35下車

〔室蘭〕平成3年9月22日(日)

ノスリ等のワシタカ類や、メジロ、ヒヨドリ等の小鳥達の渡りが見られます。

集合=9:00、女測量山入口

交通=JR(函館行北斗2号)札幌発7:00東室蘭着8:22(乗換)東室蘭発8:25室蘭着8:40、室蘭駅からはタクシー利用が無難です。

〔鏡沼・宮島沼〕平成3年10月13日(日)

宮島沼は南へ渡るマガンを中心にガンカモ類の大群が羽を休め、あるいは乱舞し、壮観です。鏡沼はキンクロハジロ等のカモ類やカイツブリ類が真近に見られます。

集合=10:00、大富会館前

交通=①JR(学園都市線)札幌発6:53(当別で車輻換)月形着8:27、JRバス(岩見沢行)月形発8:33分岐点着8:41下車、徒歩10分

②JR(函館本線)札幌発7:34岩見沢着8:21、中央バス(月形行)岩見沢発8:50大富農協9:25下車、徒歩15分

宮島沼から鏡沼へは自家用車で来ている方に乗せていただきます。

〔野幌森林公園〕平成3年10月20日(日)

見返り坂を代表とする紅葉に我を忘れ、真黒なクマガラが現れると最高です。草木が実をつけ、小鳥達があるのそばで採食してくれます。

集合=9:00、大沢口駐車場入口

交通=夕鉄バス(文京台循環線)新札幌駅発8:37大沢口公園入口8:50下車、徒歩5分

〔野幌森林公園を歩きましょう〕

平成3年9月8日(日)

平成3年10月6日(日)

集合=9:00、大沢口駐車場入口

※いずれの探鳥会も余程の悪天候でない限り行います。

※交通機関は変更等がありますので、利用される方は、各自で再調査をお願い致します。

※昼食・雨具・観察用具・筆記用具をご持参下さい。

※探鳥会の問合せは、011-551-6321 井上宅まで。

## 探鳥会報告

野幌森林公園探鳥会に参加して

3.4.14

池田達子

お天気にも恵まれ、歩く距離もほどよく、楽しい一日でした。

名札をつけて、初対面の私の名前をよんで頂き、何となく始めてきたという雰囲気ではない、親しみのもてる会でした。

春の花、春の鳥、春の自然を満喫して参りましたが、最後の鳥合せて私のみたものが余りにも少なく大変がっかり致しました。自分の未熟さを痛感した次第です。

近くの方々に色々教えて頂いたり、望遠鏡を覗かせて頂いたり、札幌近辺の情報を頂いたり、又楽しみがふえた思いでした。

数人位の小人数で歩くことになれているせいか、グループに分けてリーダーの方がついて下さったらと思いましたが如何なものでしょうか。それも一長一短があるのかも知れませんが。

最後に、多くの方のお世話になりましたこと、本当にありがとうございました。

〒063 札幌市西区西野7条5丁目4-10

〔記録された鳥〕カイツブリ、アオサギ、トビ、ハイタカ、オンドリ、コガモ、マガモ、ヤマシギ、キジバト、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ヒヨドリ、ミソサザイ、ルリビタキ、ツグミ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、シメ、カワラヒワ、ハシブトガラス 以上27種

〔参加者〕新田キノ、高橋 洋、中嶋信子、杉田範男、吉田忠勝、渋谷一郎、松本輝雄・定子、野口正男・キヨ、本橋孝之・了子、柳沢信雄、佐藤 勇、今野 弘、小林美智子、池田達子、赤石誠二、山田良造、矢野昭二・玲子、森田新一郎、佐々木武巳、戸津高保・以知子、岡田幹夫、霜村耕一、栗林宏三、井上友子、田代明子、米内由政、小馬谷秀吉・陽子、西川喜久世、玉田義一・紀美子、宇野忠男、林 茂一、澤田すえ子、山田としえ、井上公雄 以上42名

〔担当幹事〕井上公雄、赤石誠二

## ウトナイ湖探鳥

3. 3. 24

中山美樹

初めて参加した探鳥会でした。

来ていらっしゃる方が大変親切な方が多く、あまり良くわからない私に望遠鏡のピントを合わせて下さったり、鳥の事を教えて頂きました。自然を愛する人は、心も美しいのだという事が実感されたように思います。

珍鳥のカナダヅルやカワラヒワ・オナガガモ等間近で見ることができました。個人的には水辺の鳥よりどちらかというとな型の山野の鳥の方が愛着があります。

これからの季節は暖くなり、戸外は快適になる反面私のような初心者には、木の葉に隠れて鳥の姿が見えなくなります。さえずりで鳥の名前がわかると、もっと別の楽しみ方も増えるのでしょう。

自然に親しむ事で日々の忙しさを忘れ、心もゆとりを取り戻せるような気がした一日でした。どうもありがとうございました。

〒059-19 勇払郡追分町本町7丁目

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、オジロワシ、オオワシ、ノスリ、コブハクチョウ、オオハクチョウ、ヒシクイ、ヒドリガモ、ヨシガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、カワアイサ、ツルシギ、カモメ、ユリカモメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、カワラヒワ、ハシボソガラス、カナダヅル 以上29種

〔参加者〕藤原、藤原はるみ、安達エミ子、花井 昇・登和子、藤田 栄・浩美、早坂 隆・量子、武沢和義・佐知子、森田新一郎、見野末次、中山美樹、立花道代、山田良造、東野 毅・末子、佐藤 勇、羽田恭子、千葉 広、吉田忠勝、鷺田善幸、戸津高保・以知子、竹内 強、浪田良三・典子、永島良郎・トキ江、難波茂雄、野坂英三、佐藤典子、佐川節子、柳沢信雄、三船喜克・幸子、榊川 保・弘子 以上39名

〔担当幹事〕戸津高保、山田良造

\*\*\*\*\*

## 千歳一泊探鳥会

3. 5. 11

愛 高 行

今年こそアカショウビンを見たいと思い、何処へ行こうか考えていたところ、大沼氏より野鳥愛護会の千歳川周辺探鳥会に誘われ、すぐに参加を決めました。今まで

何度かアカショウビンのあの「キョロロロロー」という美声を耳にすることはあったのですが、姿を見ることができず、悔しい思いをしてきました。アカショウビンといえば、やはり千歳川が有名です。大勢のベテランバンドウォッチャーの力を借りれば、憧れの鳥、アカショウビンを見ることも決して困難ではないと思ったのです。しかも、以前にこの探鳥会でアカショウビンが確認されているとのことで、期待に胸をふくらませ、宿泊地の支笏湖畔へと向かいました。

5月12日、素晴らしい出会いを予感させるような快晴。予感どおり、探鳥開始と同時に、最初にプロミナーが捉えたのはヤマセミでした。しかも2羽を、比較的近い距離からじっくり観察することができました。さわやかな5月の風の中、千歳川の清流に沿って歩いてゆくと、ほどなくオオルリ、キビタキ、センダイムシクイ、ヤブサメなど代表的な夏鳥たちのコーラスが聞こえてきます。この付近は、特にオオルリが多いことに驚かされました。途中、千歳川の川面を飛んでゆくヤマセミの姿を何度か見かけました。しかし、目当ての鳥はなかなか姿を現わしてはくれません。

やがて、終点のダムに着きました。木洩れ陽を浴びてはらはらと散る桜の幻想的な光景を眺めつつ朝食をとり、帰路につきます。長閑な春の一日、夏鳥たちの囀りを堪能し、皆、満足した様子です。帰りには、オオルリもヤマセミも、もはやめずらしい鳥ではなくなっていました。

結局、アカショウビンを見ることはできませんでしたが、そんなことはもうどうでもいらい満足感を感じました。今日確認された鳥は47種類で、いつもより少ないようですが、1ヶ所でこんなに多くの鳥が見られる場所はそう多くはないと思います。

今まで、一人で鳥を見に行くことが多かった私ですが、今回探鳥会に参加して、大勢の仲間と鳥を見ることのできる喜びを知り、大変有意義な一日でした。ぜひまた参加したいと思います。

〒080 虻田郡倶知安町南3条西3丁目13

竹山第2コーポ1号

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、オシドリ、マガモ、キンクロハジロ、キジバト、アオバト、ツツドリ、ヤマセミ、コゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、ヒヨドリ、モズ、カワガラス、トラツグミ、クロツグミ、アカハラ、ヤブサメ、ウグイス、エゾムシクイ、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、コサメビタキ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、ベニマシコ、イカル、ニュウナイスズメ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計46種

〔参加者〕菅原哲雄、富川 徹、山田としえ、武沢和義・左知子、愛 高行、早川潤子、小川秀子、竹内 強、栗林宏三、野坂英三、小原潤子、小林美智子、佐藤ケイ、辻協由美子、栗原 哲、森田新一郎、宗沢美佐子、徳丸千恵子、戸津高保・以知子、浪田良三・典子、富田寿一、

渋井節子、西川喜久世、大西典子、鎌田玲子、柳沢信雄、永島良郎・トキ江、松井 昌、佐藤幸典、大沼 裕、土田勝久、志田博明・政子、佐藤嘉拓・由美子、吉田忠勝、黒坂英子、佐藤、井上公雄 以上43名

〔担当幹事〕柳沢信雄、井上公雄、富田寿一



#### ◆野鳥写真展の開催

今年も春恒例の野鳥写真展を、4月24日から5月18日まで、北電エレナードギャラリーと拓銀地下キャッシュサービスコーナーの2会場で開催致しました。19名の方から40点の作品が提供されました。展示場の関係もあり、折角の応募にも拘らず展示出来ない作品の有りました事をお詫び致します。

尚来年も予定しておりますので、更に良い作品が寄せられますようお願い致します。

〔写真提供者氏名〕

山田良造 (ハジロカイツブリ・ノゴマ)・萩原俊夫 (キレンジャク)・遠藤 茂 (アオバト・ノゴマ)・遠藤洋子 (キビタキ・カワラヒワ)・山本 一 (コゲラ)・難波茂雄 (マガン・フクロウ)・佐藤 勇 (カナダヅル・セボンカンムリガラ)・石橋孝継 (ウミネコ・シメ) 野

村悟郎 (アオバト・ヒレンジャク)・富川 徹 (ナベツルの群れ)・赤石誠二 (カワセミ・ヤマセミ)・柳沢信雄 (キリアイ・ハマシギ)・千葉 広 (マガン・オオヒシクイ)・酒井一光 (ヤマセミ・カケス)・小堀煌治 (クロツグミ・ミソサザイ)・和久雅男 (タンチョウ・オオハクチョウ)・村野紀雄 (イスカ)・竹内 強 (セボンカンムリガラ)・三船喜克 (エトビリカ・チゴハヤブサ)

#### ◆誌上写真展への作品提供の依頼について

野鳥写真展に出品された方々に、例年の如く作品(2点)の提供をお願い致します。野鳥写真展をご覧いただけなかった方々の為に、誌上写真展の頁を85号~86号に予定してあります。次の要領で作品をお待ちしております。

- ・締切日 3年7月20日まで(若干遅れてもよいです)
- ・作品 サービス版、カラー、白黒いずれでも可
- ・送り先 (002)札幌市北区篠路2条3丁目11~1 泉 勝統あて (TEL 771-3507)

#### ◆カレンダー作成スライドの募集

北海道野鳥愛護会では、1992年用カレンダーを作成します。このカレンダーは1年1枚もので、会員各位の写真を季節に応じて、6枚又は12枚使う企画をしています。すばらしい写真(スライドに限る)をお持ちの方は7月20日まで必着で応募してください。

なお写真は、編集委員会で選考して使用させていただきます。

カレンダーの価格は、1部600年程度と予定しています。

送り先 (〒003)札幌市白石区栄通16丁目4-13

カレンダー編集委員 山田良造 (855-3414)

#### ◆表紙用写真・原稿の投稿お願い

日頃より「野鳥だより」の充実の為に協力戴き感謝致しております。本年度も5月15日編集会議を開き、編集方針及び年度計画案を検討、6月幹事会に提示いたしました。誌面が札幌在住者に偏寄らぬよう執筆者の依頼を方針としたいと考えています。この際に道北・道東・道南地方で、日頃「愛鳥・観察」に精進されている方々に「表紙用写真・観察記録など」是非投稿戴きたいのです。この趣旨をご理解いただき沢山の記録など投稿いただければ幸と存じます。

宛先(002)札幌市北区篠路2-3 泉 勝統

#### 編集後記

平成3年度第1号の「野鳥だより84号」をお手元にお届致します。広報部の責任者を引受けさせられて2年間、何かと手落ばかりで申し訳ありません。お寛容の程……。本年度も、もう1年間ということでお引受け致しました。広報スタッフの強力なファイトに支えられた

2年間であったからです。それにしても入会4年目の新参者が、面識もない古い会員の方や非会員の方々に原稿を依頼するのは仲々大変なことでした。今年も凶々しく押の一手でやる積りです。皆様の温かいご協力をお願い致します。北海道を去られた古い会員の方々……どうぞ近況お知らせの一報でも気軽に……ハガキで結構です………寄稿いただけないでしょうか。(広報幹事代表 泉)

〔北海道野鳥愛護会〕年会費 1,500円 (会計年度4月より) 郵便振替 小樽 1-18287  
☎060 札幌市中央区北3条西11丁目 加森ビル5・6階 北海道自然保護協会気付 ☎(011) 251-5465